

< はじめに >

○大阪の歴史は、「上町台地」から始まった

- ・大阪の歴史を語るうえにおいて「上町台地」の存在を抜きにすることは出来ない。
大阪平野を南北に伸びる長さ約12kmの丘陵地・台地で、その昔、西部には大阪湾の波が打ち寄せ、その東部(現在の大阪平野)も台地北部を回り込む形で生駒山系付近まで海(河内湾)が広がっていた。その後、大阪湾から打ち寄せる海砂が堆積して台地の西側に砂浜が広がり、北部には砂嘴が伸びて東部への海水の流入がせき止められて河内湾も汽水化し、河内湖になるとともに淀川、大和川から流れこむ土砂によって三角州が形成され、時の流れに伴って陸地化、平野化していった。
② 現在の和川は西進して堺市北部で大阪湾に流れ込んでいるが、かつては北流して上町台地の北東付近で淀川と合流していた。現在の流れに移し替えられたのは江戸時代(宝永元年[1704])になってからである。
- ・縄文時代に入ると台地東麓の森の宮付近に初めての集落が生まれた。
- ・応神天皇のあとを継いで仁徳天皇元年(313)1月即位した第16代仁徳天皇は、難波を都と定め、上町台地の北部、大阪城付近に「高津宮(たつみや)」を置いて、大坂平野の大掛かりな土木事業を行った。『日本書紀』巻11の仁徳天皇11年10月の条に、「宮北の郊原を掘りて、南の水(大和川)引きて西の海(大阪湾)に入る。困りて其の水を号けて堀江という。又、将に北の河のこみを防がんとして、以て茨田堤を築く」と記されている。すなわち、上町台地の北端、現在の大阪城北側の大川から中之島方面へ通じる水路を掘って台地東部の水を排出し、淀川本・支流に堤を築いて流れを整え、洪水を防いだ。
③ 「高津宮」については、仁徳天皇を主祭神とし、「民のかまどに立つ煙にぎわいまさる大阪市」の歌詞で知られる「大阪市歌」碑があることから、天王寺区餌差町の高津神社が「高津宮址」と誤解されやすいが、当神社は、天正11年(1583)の大坂城築城に際し現在地に遷座したもので仁徳天皇の高津宮は上町台地の北部付近とする説が通説とされている。
- ・皇極4年(645)に中大兄皇子、中臣鎌足らが宮中で蘇我入鹿を暗殺して蘇我氏を滅ぼしたあと即位した孝徳天皇は、都を飛鳥板蓋宮から難波に移し、上町台地に「難波長柄豊崎宮」を造営したが、この宮は、朱鳥元年(685)に焼失した。(「前期難波宮」)
神亀元年(724)に即位した聖武天皇は、同3年に難波宮の再建に着手し、工事は同10年頃まで続けられた。その後、都が平城京に移されたあとも難波は副都とされ、難波宮は、延暦3年(785)に始まった長岡京造営時にその諸殿舎が移建されるまで、ここ上町台地に置かれた。(「後期難波宮」)
- ・難波宮が廃されたのち、大川筋は渡辺津として賑わった。四天王寺・住吉大社・高野山・熊野への参詣路の船着き場であり、大阪湾に繋がる運輸・交通の要として発展を遂げ、ここを拠点とした武士団・渡辺党が活躍した。
- ・明応5年(1496)、本願寺8世・蓮如により現在の大阪城付近に「大坂御坊」が建設された。その後、天文元年(1532)に京都・山科本願寺が焼打にあったため、本願寺本山がここ「大坂御坊」に移され、「石山(大坂)本願寺」として、寺内6町と枝町4町による寺内町が形成された。
天正8年(1580)8月、前後11年に及ぶ織田信長との死闘により抗戦派の教如らも石山を退去したが、この時に寺内より発した火で町全域が灰燼に帰した。
- ・本能寺跡は信長の直轄地とされたが、天正10年(1582)の「本能寺の変」で信長が横死すると、大坂は一時池田恒興の領有となった。

○「大阪城」築城と城下町の建設

- ・天正11年(1583)4月の賤ヶ岳合戦で柴田勝家を破った豊臣秀吉は、池田恒興を大垣城に移して大坂を掌握し、同年9月から大坂城の築城を開始するとともに城下町の建設にも着手した。北は大川から南は四天王寺付近までの上町台地に町家が建て並び、文禄3年(1594)の惣構工事(北＝大川、南＝空堀、東＝猫間川、西＝東横堀川)によって、

玉造の大部分も城下に取り込まれた。さらに、慶長3年(1598)からの”三ノ丸”工事で城内の町家が拡張された北船場に移築され、堺や平野等から移り住んだ職人や商人達を中心とした大阪城城下町が拡張・整備されていった。

- ・慶長19年～20年(1614～15)の”大坂冬の陣・夏の陣”によって大坂市街は焦土と化した。大坂藩10万石の藩主となった松平忠明のもとで戦後処理が進められ、上町・船場・天満地域の復興とともに旧”三ノ丸”の大部分が市街地に開放された。

元和5年(1619)に松平忠明が大和郡山藩主に転封になったあと、大坂は幕府直轄地(天領)となり、大坂城代と2人の大坂町奉行のもとで、町人を中心とした堀川の開削や新地開拓によって大坂の町も西や南に拡張され、”三郷”(北組・南組・天満組)と称する市街地が形成されていった。この時に大坂の町づくりに活躍したのが、”淀屋”や”安井(久宝寺屋)”といった豪商町人達である。また、谷町地域を中心に京・伏見城下から町ぐるみで移り住んだ人達も再開発・新しい町づくりに大きな役割を果たした。

○この冊子でとりあげた対象範囲とその内容構成

- ・この冊子では、上町台地を中心としてその東西の地域にあたる旧・東区北東部の町々の移り変わりを眺めていくこととし、その範囲としては、ほぼ、もと”大坂城惣構”内の地域、即ち、北は「大川」、南は「長堀通」(空堀の北側)、東は「JR環状線」(もと猫間川)、西は「東横堀川」に囲まれた区域とする。

また、その区域を「谷町筋」を中心軸として、「谷町筋」の西部を「谷町・大江地区」、東部を「上町・玉造地区」に大きく2分してまとめることとする。

その内容については、まず、「Ⅰ歴史の舞台となった「上町台地」」として、上町台地の上に展開された歴史的史跡を時代の流れに沿って順に概括し、次いで「Ⅱ「天満橋」と天満橋南詰地域の今昔」および「Ⅲ「谷町・大江地区」今昔」、「Ⅳ「上町・玉造地区」今昔」に分けて、それぞれの地区毎の町々の移り変わりをまとめ、全体で4部構成としている。

*「旧・東区」について

- ・東を大阪環状線、西をもと西横堀川、北を土佐堀川・大川・寝屋川、南をおおむね長堀通・安堂寺橋通に囲まれたほぼ長方形の区域で、大阪のシンボルである大阪城や、大阪府庁・国の出先機関が並ぶ官庁街および江戸時代から大阪経済の中心であった谷町、船場を包含するエリアである。

- ・江戸時代には、大部分が大坂三郷の北組に属し、明治12年(1879)の郡区町村編制法施行によって「大阪府東区」が発足、明治22年(1889)の市制施行により、「大阪市東区」となったもので、明治30年(1889)の大阪市第1次市域拡張によって大阪環状線以西の玉造地区が、東区に編入された。

- ・そして、平成元年(1989)2月に、南区と合併されて「中央区」となり、現在に至っている。

- ・東区時代の区役所は、当初、備後町2丁目に置かれたが、その後、淡路町1丁目(明治13年～)、高麗橋1丁目(明治19年～)、本町1丁目(明治34年～)と移転し、現・中央区の区役所は、久太郎町一丁目(農人橋・西南詰)に置かれている。

② 旧・東区のうち、東横堀川と西横堀川に挟まれた「船場地区」は、この冊子の対象外になっているが、当該地区の今昔については、別冊子の『船場・堂島今昔』を参照されたい。

*「東横堀川」について

- ・豊臣秀吉の命により、大坂城の西惣構堀として天正13年(1585)に開削(文禄3年の説も)された大阪市で最古の堀川で、大坂冬の陣のあとの和睦条件により一旦埋め立てられたが、夏の陣のあと掘り返され、ほぼ同時に堀止から西へ道頓堀川が開削された。

- ・北(上流)から、葭屋橋、今橋、高麗橋、平野橋、大手(思案)橋、本町橋、農人橋、久宝寺橋、安堂寺橋、末吉橋、九之助橋、東堀橋、瓦屋橋、上大和橋が架かっている。

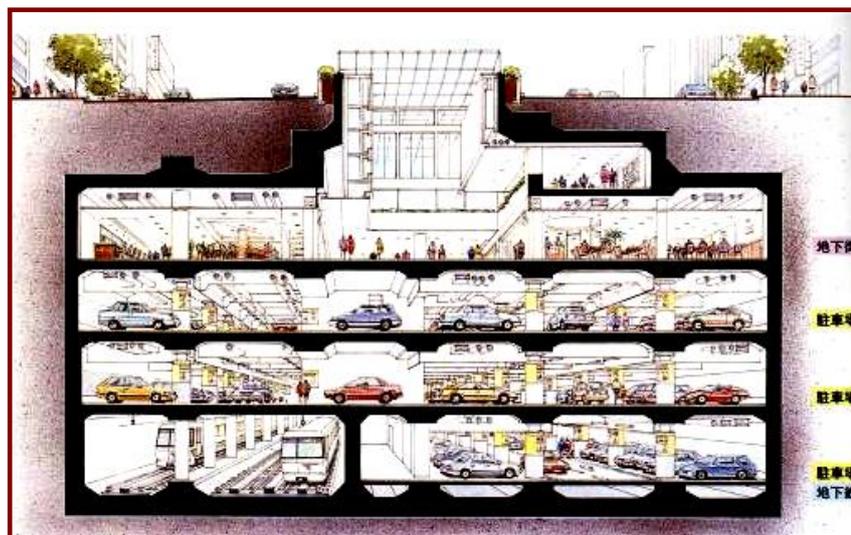
なお、高麗橋の上手に水門(閘門)が設けられている。これは、土佐堀川からの流入量を調整するために設けられたものである。

- ・本町の”まがり”

本町橋と農人橋との間でS字形に東へ折れ曲がっている。これは、南側に浄国寺があったため、寺院を避けて開削されたことによる。水難除けの「曲り淵地蔵」が祀られている。

*「長堀通」について

点(木津川)から今里交差点(今里筋)までの約5.9kmを指す。もと「長堀川」北岸の末吉橋通を拡幅したもので、「東横堀川」以西は「長堀川」を埋立(四ツ橋以东は昭和35~39年、以西は昭和42~46年)たものである。埋立部分の地下は4層に分かれ、地下街や公共地下歩道、地下駐車場が整備されて有効活用されている。



「長堀川」埋立部分の地下構造

・「長堀川」は、元和8年(1622)開削された運河で、東横堀川の末吉橋下流から分流して西に流れ、木津川の伯楽橋下流に至っており、長さは約2.5km、幅は約30mであった。開削者は伏見から移住した有力町人達で、そのひとりである岡田新三は、美濃屋心齋と称して長堀川沿いに居を構え、その屋敷前に架かった橋が心齋橋の由来とされている。また、途中で西横堀川と交差しており、この交点には「口」の字型に4つの橋(上繫[ツナギ]橋、下繫橋、炭屋橋、吉野橋)が架けられていたことから「四ツ橋」と呼ばれる。西横堀川以西については「西長堀川」と呼ばれ、江戸時代には土佐や阿波などの材木問屋が多く立ち並び、鯉座橋付近には土佐藩の蔵屋敷が置かれていた。

・この「通り」には、明治41年11月に市電が敷設され(末吉橋~ 上本町2丁目間は明治43年3月、上本町2丁目~ 玉造間は明治45年に延伸)、昭和36年11月に廃止されてトロリーバスに転換されたが、それも昭和44年9月に廃止された。

・また、地下には「地下鉄・長堀鶴見緑地線」が走っている。

この路線は、平成2年(1990)に鶴見区の鶴見緑地で開催された「花博」に合わせて、京橋駅~鶴見緑地駅間が開業したもので、当初の路線名は「鶴見緑地線」であった。その後、平成8年に京橋駅から心齋橋駅まで延伸されて「長堀鶴見緑地線」に改称、そして、平成9年8月、門真南駅から大正駅までの全線が開通した。

計画当初は上町筋を経由する経路も検討されたが、大坂城の外濠や難波宮跡での地下工事は困難が予想され、森ノ宮駅で中央線と接続できる玉造筋ルートが選定された。なお、この路線では、従来の車両より断面積が小さい日本初の鉄輪式リニアモーターミニ地下鉄が採用され、いち早く全駅に可動式ホーム柵が設置されている。

<参考>

*「大阪」の地名について

・「大阪」という地名については、「大坂御坊(石山本願寺)」を開いた蓮如上人が、「御文」の中で「摂州東成郡生玉ノ庄内大坂」と記したのが、最古の記録とされている。

かつては、「小坂」や「尾阪」とも呼ばれ、いずれも「オサカ」と称されていた。上町台地の東西に大小の谷筋(坂)が入り組んでいた地形を表したものとみなされている。

・「大坂」が「大阪」の表記に変わったのは、明治に入ってからであり、それを定めた記録は残っていないが、公式文書で徐々に「大阪」表記が使われていき、一般化していった。これには、ツチ偏の「坂」の字が、「土に反(カエ)る」として死を連想させて縁起が悪いとか「土(サムライ)に反(サカ)う」に通じることから、コザト偏の「阪」に変えたと論じられているが、真偽のほどは明らかでない。